



いきいき 通信

vol. 12

「シェア」の心得を 教えてもらいました。

1

放置自転車600台。それを救っているのが、たった12坪の『えむじかブラジル店』だ。とは言い過ぎかもしれないが、“サイクルシェア”は出町柳駅周辺の放置自転車を減らすことに一役も二役もかっている。“サイクルシェア”とは、名の通り、自転車を共有することで、主に通勤・通学で利用する人に向けたサービスだ。例えば、朝、大阪方面への通勤のため駅まで来た自転車が、今度は駅から自転車で通学する人の足に変わる。自転車1台を2人でシェアしようというやり方でムダがない。おおよそ600名の方が登録、150台ほどの自転車が店内の小スペースに整理され置かれている。この店の他にも四条河原町店、更には、出町柳にある『ナミイタレ』というシェアスペースを運営する柴山留佐さんにサイクルシェアの心得を聞く。「自転車一台一台が人から人への手渡し。だからこそ、自転車を大事に使ってくれる、“有人”であることが絶対のこだわり」とのこと。スタッフ一人一人に文化があるし、借りてくれる人々にも文化あり。毎日、約400人が朝夜2回訪れるそうで、それだけで延べ800人の出入りがある。そう聞くだけで、毎日ドラマが起こりそうだ。こんなに素敵なサイクルシェアがなぜ全国に広がらないか聞くと「儲からないから」という答え。しかし現在は、大都市でのサイクルシェアの在り方を模索中とのこと。大阪、東京、果ては海外。このやり方が広まっていけば、大都市にスペースが生まれ、サイクルシェアに集う多くの人々、そして土地の文化が混じり合う。そして人の温かみのある場が生まれ、その土地ごとの文化が自然と醸成されていくだろう。



レンタサイクルえむじか

シェアの カタチ



住居や、仕事環境、乗り物など、様々なところで注目される(シェア＝共有)のスタイル。今回は、その「シェア」をテーマに、地域にあるシェアの姿を取材しました。そこには、シェアを通じて広がる、人、物、世界がありました。

2

心と心の対話。 寺、占い、ゲストハウス。

「店みたいな寺」というコンセプトから生まれたその建物は、現在ゲストハウス「梵定寺(ぼんていじ)」として切り盛りされている。一見怪しい雰囲気を持つこの*ゲストハウス。もとは不遇の死を遂げた芸術家を祀る寺としてタロット占術師マドモアゼル朱鷺さんが創建したもの。その後「本当の“寺”とは、立場や国境を越えて色んな人が心話の出来る場所である」という思いを、マドモアゼル朱鷺さんのお弟子さんであるフクさんが受け継ぎ、ゲストハウスとしてオープンさせた。そのフクさん自身もタロット占術師である。彼女は、その職業から受けるイメージや、建物の印象とは裏腹に、とても穏やかで受容性のある雰囲気を持っている。それに惹かれてかこのゲストハウスには、社長さんから東京のアーティスト、もちろん外国の方まで多種多様な人物がやってくるそうだ。「色んな立場、国境、性別の人がここにやってくるのですが、占いというのはその人の深い話を瞬時に聞くことになります。だからこそ、垣根を越えて対話することが出来る、心と心の対話ですね。だから、占いとゲストハウスというのは相性が良いと思います。どちらも自分を明け渡す、心を共有する行為だから」と。昨日まで知らなかった人とひとつ屋根の下で過ごす。話を聞いてもらう。一般的な宿泊施設とは違う、懐の深さがそこにはあるような気がする。



ゲストハウス 梵定寺

*ゲストハウスとは主にセルフサービスが基本の素泊まりの宿泊所。キッチンやシャワールームなどは共有で使用できることが多い。

3

井戸端会議はシェアの根源！？

当センターから北へ歩き、踏切を越えて線路沿いに少しだけ東に向かうと1本の蜜柑の樹、木陰にはベンチが置かれたスペースがある。ずっと前から気になっていたこのスペースは、『やなぎのひろば』と呼ばれ、誰でもが好きな時に座ってお茶を飲んだり、ぼんやりと雲の動きを眺めたり、思い思いにリラックスして過ごせる空間だ。「毎日来てる」というご婦人に詳しくお話を聞くと、「ここは、最初に、やなぎさんという人がいたんや。それで、『やなぎの広場』。別の人が、小さな蜜柑の樹の苗を植えて今はこんなに大きくなった。30数年前の話や」とのこと。多いときには10人くらいが集まり、楽しくおしゃべりしたり、情報交換をしている。もちろん、美味しいお菓子があれば、おすそわけしたり。ここでのシェアは心地よい場所と時間を共有する。ただそれだけ。すごくシンプルで、簡単だ。そして、それらは、先代から受け継ぐ、地域コミュニティの中で自然と行なわれてきたことであり、「井戸端会議」の場こそがシェアが生まれる根源的な場所なのかもしれない。



やなぎのひろば

スタッフが考える

当センターに4名の新しいスタッフが加わりました。音楽や演劇、アートに精通した個性溢れる顔ぶれです。どうぞよろしくお願ひします。

まだまだ身近にある、 シェアのカタチ。

イラスト：脇田友



若者の井戸端会議の場はネット上のSNS (twitter, facebook等) に。簡単に情報をシェアし人と繋がることが出来ますが匿名性の問題もあり取り扱いが難しい。できるだけ良い形で使っていきたいですね。

Katayama Rie



0歳の娘と児童館や図書館などへ行くと、親御さん達と生の情報をシェアして、子育てのヒントが沢山得られる事に驚きます。親達が話している間に、赤ちゃん達も遊びながら、シェアの始まりを体験しているのかも。

Wakita Tomo



僕が実際にやっているというか、身近にあるシェアは、『鍋もの』です。同じ釜の飯を食う、という言葉があるように、一つの鍋をつつき合うというのは、交流のための「シェア」と言えるのではないのでしょうか。

Nagasawa Keita



“バス”の語源は「オムニバス」。「全ての人のために」という意味の言葉からきているそうです。京都を走る沢山のバスはまさしくシェアの象徴かもしれませんね。

春のぼかばか陽気の中、てづくりの楽器を自由に鳴らし始めると、それは、だんだんと大きくなり、自然とリズムを生み出します。それに合わせて、ゆらゆら体を動かすと、連鎖がおこって、更にはみんなが踊りだす。延べ180人の方にご参加いただいた『いきいき春の音まつり』は、お年寄りから子どもまで、音をつくり、音に触れ、音を楽しんだ一日となりました。



本企画は、ダウン症といった障がいを持ちながら、アフリカンドラムをはじめ、ピアノやマリンバのミュージシャンとして活動をおこなう青年“タケオ”こと新倉壮朗さんのライブを沢山の方に見て欲しいという思いのもと、同じくダウン症の子どもを持つお母さんの思いが形になったものです。その思いは、さまざまな人の心を動かし、当日は、おんらく市場による《楽器づくり》や、劇団・ドキドキボーイズの本間広大さんによる《からだワークショップ》、障がい者施設などで手づくりされたお菓子や雑貨を紹介する《はあと・フレンズ・ストア》の出店、カラフルな色使いが魅力の、いかわあきこさんの《絵画展》、トコトコの会京都による《写真展》など、沢山の企画実現へと実を結び、タイトルの名の通り賑やかな“お祭り”となったのです。



盛り沢山の企画の中でも、やはりフィナーレとなる《タケオライブ》が始まると、大広間には大勢の人ばかり。タケオの登場に大きな拍手が響き、大阪マライカとタケオのアフリカンドラムによるセッション、ダンスで会場は熱気に包まれます。タケオのパフォーマンスに目を輝かせる子どもたちや、音に合わせて手拍子や体を動かす大人たち。会場が一つになったような高揚感、不思議と心も一つになったような気持ちに。音楽がつながり、人との輪。このようなことをテーマに今後も当センターは音楽イベントを開催していきます。次回予定は11月。どうぞお楽しみに。



市内に点在!? 京都の“いきセン”

京都市の『いきいき市民活動センター』は当館を含めて13箇所あり、どの場所でも市民活動の支援事業をおこなっています。運営はNPO団体や企業など様々なため、場所ごとに特色があるのが魅力。今回は、センターごとに異なる“いきセン”の取り組みをお伝えすべく、岡崎いきいき市民活動センターを取材しました。



旧京都会館から西へ徒歩1分のところにある白い建物、それが岡崎いきいき市民活動センター。ここを運営するのは『音の風』という音楽を通じた社会貢献に取り組むNPO団体です。センターの事業も、その特色を生かしたものが多く、その中のひとつ、《歌声クラブ》という企画は、月に一度、地域の中高年層を中心に集まり、懐かしの歌を唄うもの。講師の生演奏つきで、毎月30名~40名の参加者が集い、大盛り上がり様子。そういった事業を通して、地域の人、そして利用者が、センターに立ち寄ったついでに世間話をするという、微笑ましい関係が出来ているそうです。職員の天谷さおりさんは「音楽もこのセンターも、暮らしの中で当たり前のように在ってほしい」と話してくれました。場所が変われば、センターの役割や、取り組みは変わる。ぜひ、いろんなセンターに足を運んでみてください。

市民活動を支える京都の“いきいき市民活動センター”

- 〈北〉 北区紫野北花ノ坊町18番地 (Tel:492-7320)
- 〈岡崎〉 左京区岡崎最勝寺町2番地 (Tel:761-4484)
- 〈左京東部〉 左京区鹿ヶ谷高岸町3番地の2 (Tel:761-1385)
- 〈左京西部〉 左京区田中玄京町149 (Tel:791-1836)
- 〈中京〉 中京区西ノ京新建町12番地の34 (Tel:802-1301)
- 〈東山〉 東山区三条通大橋東入2丁目下る巽町442番地の9 (Tel:541-5151)
- 〈下京〉 下京区上之町38番地 (Tel:371-8220)
- 〈吉祥院〉 南区吉祥院砂ノ町47番地 (Tel:691-7561)
- 〈上鳥羽北部〉 南区上鳥羽南唐戸町62番地の2 (Tel:691-9098)
- 〈上鳥羽南部〉 南区上鳥羽山ノ本町60番地 (Tel:672-3521)
- 〈久世〉 京都市南区久世大築町54番地の1 (Tel:921-0030)
- 〈醍醐〉 京都市伏見区醍醐外山街道町21番地の21 (Tel:571-0035)
- 〈伏見〉 京都市伏見区深草加賀屋敷町6番地の2 (Tel:646-4274)

*各センターでの事業や施設の空き状況はお電話やウェブサイトでご確認ください。

今後のイベント／参加募集 *お申込み・お問い合わせは当センターまでご連絡ください

野菜市 大好評の野菜市。そろそろ夏の野菜も登場です。

日時：毎月第2土曜日 10時~11時 (売切次第終了) / 場所：養正市営住宅9棟1階 田代書店の横

50歳からの演劇講座 (1日体験コース) 演劇初心者でもお気軽にご参加ください。

日時：7月12日(土) 10時半~12時半 / 場所：左京西部いきいき市民活動センター
料金：1000円 / 申込み切：7月7日(月)

いきいき
こらむ。

センター長・杉山準の

この3月から4月にかけて、地域のお年寄りの人生を写真入りで紹介する『思い出アルバム展示会』という催しを行いました。この事業はお年寄りに聞き取りをして、それをパネルにまとめて展示するもので、特に過去を回想してもらうというプロセスを大切にしています。事業を通じて、お年寄りの心の活性化や地域での支え合いが促されればと願って、同じコンセプトの事業を毎年実施しています。さて、手前味噌で恐縮ですが、お年寄りから伺ったお話には、毎回胸を打たれます。人には誰にでも歴史があります。ご本人にはとてもつらい思い出もありましょう。展示を見ていると、つくりものではない実感が伝わってきて心を揺さぶられます。つらかった体験に想像をめぐらすことができます。わたしはお話をいただいたみなさんを直接は存じませんが、展示を見たことで心の距離は近づいた気がしました。人の痛みや苦しさをわずかでも共有できれば、知らない人の見えない痛みにも、心が向けやすくなる気がします。